

実績報告

看護部

- 2階病棟
- 3階病棟
- 4階病棟
- 5階病棟
- 1階北病棟

- 中央材料室



看 護 部

【看護部スタッフ数（平成28年3月31日時点）】

看護配置基準	15：1 但し、精神科急性期治療病棟のみ13：1
看護師 (パート含む)	121名
准看護師	7名
看護補助	31名

【平成27年度を振り返って】

- ① 〈医療事故防止：インシデント・アクシデントレポート発生総件数の減少に努め、安心・安全な医療提供を実現させる〉

平成27年度南浜病院におけるインシデント・アクシデントレポートの総件数は541件（前年度－28件、－5％）で事故の種類上位1位と2位は変わらなかった。1位：転倒・転落159件（前年度－1件、うちレベル3は6件、前年度＋4件）2位：薬剤88件（前年度－44件）、3位：療養上の世話65件（前年度＋31件）であった。

1位の転倒・転落については依然、高齢化に伴う脱水や低栄養、内科疾患等の存在がリスクを助長させている。当院かかりつけ患者には地域課と連携した早期の介入、他の施設からの紹介患者については身体面への情報収集に不備がないようにしなければならない。転倒による骨折で患者に新たな心身の負担をかけぬよう、転倒・転落スコアに基づく看護ケアの実践に努めなければならない。

2位の薬剤は今年度より自己服薬のエラーを療養上の世話で分類しても激減した。年度内に防止月間を設け、関わる職員全体で確認、観察、連携上の原則を徹底したことが要因であると考えられる。

3位の療養上の世話は今年度より加えた自己服薬のエラーの他、雑多が目立つ。

分類の変更はあったものの、インシデント・アクシデントレポートの総件数を減少でき、目標は達成した。今後もレベルの区別なく分析、防止対策を講じ、より一層の「安心・安全な医療提供の実現」に努めていきたい。

- ② 〈看護師確保と定着〉

平成27年度実績

	4月新卒採用	4月以降 既卒採用	4時間以上勤務 のパート採用	正規職員 退職者
看護師	2名	5名	3名	7名
准看護師	/	1名 看護師通信 過程奨学生	/	0名

平成28年度に稼働する精神科救急入院料算定病棟（スーパー救急）に照準を合わせて不足人員を調整、求職に努めた結果、看護師確保は達成できた。

公益社団法人新潟県看護協会ナースセンターの看護職員再就職支援講習会協力施設にエントリーし、受入れ体制を整備したが、受講者はいなかった。

退職後の速やかな補充と配置上の安定が課題であるが、平成27年度常勤看護職員の離職率は5.86%*(10.9%)、新卒看護職員は0%*(7.5%)であった。

* () 数字 公益社団法人日本看護協会の平成24年度調査結果

ワークライフバランスの要素である「仕事」「家庭」「地域生活」「自己研鑽」に「やりがい」「定着」を加えて課題を整理し、向上に努めて行きたい。

③（精神科救急病棟申請のための実績確保（措置入院件数、時間外診療件数など））

法人全体で達成しなければならない課題である。看護部では従来、通年で病棟勤務者とは別に各勤務帯に1名、主任以上の看護師（以下責任番看護師）を配置している。当院では責任番看護師が時間外での新患、かかりつけ対応の窓口になって相談、受診、入退院等の業務に従事している。

これまで以上に関係部署、他職種とスムーズで的確な連携を図って、必要な実績（20件/年以上または圏域の1/4の措置入院件数、200件/年以上の時間外診療件数等）に貢献できた。

【平成28年度抱負】

- ・権利擁護、接遇に配慮した質の高い看護の提供を実践する。
- ・医療事故防止：インシデント・アクシデントレポート発生総件数の減少に努め、安心・安全な医療提供を実現させる。
- ・各病棟の行動目標の明確化と実践（アクションプランの公表、実践、評価）

看護部長 大滝 寛

【部署名】

2 階病棟

【種 別】

精神一般

【病床数】

60床

【職 種】

看護師・准看護師・看護補助員

【業務内容】

2 階病棟は、開放病棟対象の精神疾患の患者や内科的疾患を合併している患者、廃用症候群等により寝たきり或いは歩行が困難で車椅子生活を余儀なくされている患者が通常 7 割以上入院している病棟である。

平均年齢 78 歳前後であり、高齢者病棟としても機能している。

〈体的な業務内容〉

- ・健康管理
- ・薬の管理
- ・注射、点滴管理
- ・口腔ケア・入浴介助
- ・食事介助
- ・経管栄養管理
- ・胃瘻の管理
- ・カテーテル管理
- ・創部処置
- ・排泄の援助
- ・定期的な体位交換
- ・作業療法への参加と個人リハの実施と援助
- ・酸素、モニター管理
- ・終末期ケア
- ・精神症状の改善と心身の安静の援助

褥瘡対策、感染対策にも力を入れ、（褥瘡患者年間平均 2.1 名）感染症のアウトブレイクもなかった。

【今後の展望】

今年度は「1. 受け持ちスタッフを中心に個性を反映したケアを提供する」「2. 感染予防に配慮したケアを提供する」を目標に掲げ努めてきた。日々の業務の中で担当患者や、その家族との関わりに課題は残るものの、受け持ちとしての意識は高まり、個別的なケアの取り組みが多くなった。

感染対策も意識が高まり、常に感染に配慮したケアを心がけている。

〈平成28年度目標〉

「1つ1つを丁寧に、心のこもった看護と快適さを提供する。」

- ・それぞれが常に「自分だったらどう感じるか」という発想を持ち、患者の立場に立って、患者の要望や快適さを追求する。
- ・思うように動くことができない患者、表現できない患者、人生の最期を迎えようとしている患者などあらゆる患者の要望を汲み取り、応えていけるようケアを立案する。
- ・慣れた1つ1つの業務を改めて意識化し、丁寧に取り組む。
- ・終末期医療の患者には、最期の時を迎えるその時まで、出来るだけ心穏やかに、そして尊厳を持って死を迎えられるようにサポートする。

来年度は心理療法として回想法を平成28年6月から開始出来る様準備している。回想法を通して認知症の予防や患者の理解が深まる為、より質の高いケアへの意欲にも繋がると思われる。また、継続して病棟担当作業療法士に積極的に介入してもらい個人リハの実施、ADLの維持に努めていく。

今後も安全で安心できる看護・援助を提供し、高齢者内科病棟としての役割を果たしていきたい。

文責 神田由香里

【実績】

	特殊疾患入院施設管理加算対象率
4月	74.5%
5月	74.5%
6月	72.8%
7月	70.6%
8月	71.4%
9月	72.3%
10月	70.9%
11月	72.2%
12月	72.7%
1月	73.5%
2月	74.5%
3月	80.7%

【個別身体リハビリテーション状況】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介入平均数	2.89	2.47	3.17	2.42	2.11	2.09	2.35	2.04	3.48	2.58	2.86	2.14
介入合計	55	47	57	46	40	46	54	48	51	73	49	45

【部署名】

3 階病棟

【種 別】

精神科急性期治療病棟 I

【病床数】

60床

【職 種】

看護師・准看護師・精神保健福祉士・看護補助員

【業務内容】

急性期の精神科疾患患者に対し、急性症状の改善と安全を最優先に心身の安静に努め、集中的な治療と看護を提供している。

個別受け持ち制＋機能別看護で入院時から担当の看護師と精神保健福祉士が関わっている。本人や家族に対して必要な支援体制の提案や心理社会療法プログラムの選定（病棟内 S S T、心理教育、回想療法、O T クラブ）、患者自身による病状と治療経過の評価、家族・患者面談など担当看護師がコーディネータ役として患者がチーム医療スタッフと話し合いながら主体的に治療をすすめている。

病棟内は4つのエリアに区分し、Aエリア・Bエリア・Cエリア・Sエリアそれぞれにリーダーを配置している。その日の統括リーダーやサブリーダーは主に医師の診察対応など全患者に関わる業務を遂行。各エリアのリーダーは担当する患者の状態の把握や必要なケアの実施を行っている。その業務と並行するように入院する患者の受け入れ、家族対応を行っている。

3ヶ月以内の退院を目標に一人の患者をみんなの力でサポートし、一日も早い社会復帰への援助を行っている。その他、看護師臨地実習の受け入れ（新潟医療福祉大学、国際メディカル専門学校など）をしている。

3名の臨地実習指導者を中心として、学生が伸び伸びと実習できる環境づくりと精神科看護の奥深い学びができるよう努力している。

【今後の展望】

- ・クリニカルパスやクライアントパスを活用した治療や看護など多職種医療スタッフでの情報共有と専門的な支援
- ・隔離の早期解除や統一した評価に向けた隔離評価表の作成を模索
- ・入退院のバランスを踏まえた新規入院患者比率のコントロールを実践する。
- ・新規入院患者退院率60%以上をキープできるような支援体制の構築
- ・地域における支援者との関係づくりや社会資源の活用とサポート力の強化
- ・精神科救急病棟立ち上げ、スムーズな移行を視野に実績づくりを実施

文 責 和 気 一 弘

【実績】

1. 病棟利用状況

	平成26年度	平成27年度	前年比
延入院患者数（名）	292	335	43.0減
月平均入院患者数	24.3	27.9	3.6減
平均在棟日数	68.1	55.4	12.7減
一日平均入院者数	51.3	50.7	0.6減

2. 各種プログラム参加状況（1月あたりの平均参加者数と年間延べ参加数）

	平均参加者	延べ参加者数
S S T	15.3	184
心理教育	30.5	366
回想療法	11.2	134
O T	450.6	5,408

3. 疾患別入院者数 H27.4～H28.3

	統合失調症	うつ病	躁うつ病	認知症	パーソナリティ障害	精神発達遅滞	その他
4月	8	7	2	2	0	1	6
5月	7	9	1	1	0	2	6
6月	7	7	5	0	2	0	3
7月	10	7	3	3	0	0	5
8月	7	7	2	1	1	0	5
9月	8	5	1	3	0	0	7
10月	9	3	2	3	0	0	5
11月	7	7	3	1	0	0	9
12月	16	3	5	0	0	1	5
1月	15	5	3	1	0	0	7
2月	9	5	1	1	0	2	4
3月	10	9	3	2	2	2	7
合計	113	73	31	18	5	6	69

4. 新規入院患者入院率と退院率 H27.4～H28.3

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入院率	94.9	96.2	96.4	95.9	95.5	89.5	88.5	90.0	96.8	95.7	93.7	93.0
退院率	75.8	75.0	71.4	84.0	72.0	72.7	92.0	81.8	68.1	80.0	76.1	77.7
非再入院率	95.4	91.7	100	95.3	100	100	100	100	93.3	100	81.2	100

※ 非再入院率：新規対象者で3ヶ月以内に退院し、3ヶ月以上自宅または施設で過ごした方を対象

【部署名】

4 階病棟

【種 別】

精神一般

【病床数】

60床

【職 種】

看護師・准看護師・看護補助員

【業務内容】

病棟の機能として、急性期治療病棟をはじめ、他病棟の後方支援病棟としての役割が大きい。その為、慢性症状を呈し入院が長期化している患者と急性症状を呈した患者が混在している。その中で、日常生活の援助と、集団・個別の生活スキルの向上と機能回復及び自立に向けた支援を行っている。具体的には今年度から認知症を対象に回想療法（H27.7/22～1回/週）を実施し、また退院後の地域生活を意識してもらう目的として自治会：患者全体ミーティング（H27.7/15～1回/月）や町内会：小グループミーティング（H27.11月～1回/月）を開始した。その中で相談することに慣れてもらい、互いに知恵を出し合い自身の生活のスキル（対処方法）に繋げてもらえるよう支援している。また朝の集い（H28.3/1～平日毎朝）を行い患者自身がその日の予定を立て生活が送れるよう支援を行っている。

そして、患者の希望を現実に繋げられるよう退院に向けての支援として定期的にカンファレンスを実施し、方向性を定め、多職種によるサポート支援を心がけ進めている。

【今後の展望】

病棟目標は前年度同様『私たちは患者との関わりを大切にし、希望を現実に繋げられるよう支援していきます』を掲げ業務に携わっていく。

患者の希望する生活実現の為、以下の内容に重点を置き支援を進めていく。

- ① 患者と協働してパートナーシップのもと問題に取り組む病棟文化の構築
- ② 行動制限の早期解除に向けた取り組み
- ③ 長期入院患者の長期化にストップ！をかける退院支援の取り組み

文 責 深井真奈美

【実 績】

H27.4～H28.3

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入院患者数	7	4	3	5	1	7	3	0	3	3	3	2
退院患者	1	2	8	4	3	3	5	2	2	2	6	5
転入患者	5	7	5	4	12	5	5	6	4	6	4	6
転出患者	6	10	4	3	12	8	5	4	3	6	5	2
1日平均患者数	57.6	58.4	56.9	55.8	57.4	56.6	55	54	56.6	55.9	55.1	54.5

【部署名】

5 階病棟

【種 別】

精神一般

【病床数】

60床

【職 種】

看護師・准看護師・看護補助員

【業務内容】

5 階病棟は、6 室の個室と 1 室の特別室を備えており、主にストレス症状を持つ、軽度のうつ病や心身症、思春期精神疾患など緊急避難的な短期休息入院の利用がある。その他に、急性症状の段階的治療により症状の安定した方や長期的な治療・療養が必要な方が入院している。個々の援助計画の立案や実践・評価の場面でも患者が主体的に参加できるよう業務を行っている。1 日でも早い社会復帰と自立を支援していく為に、様々なプログラムを積極的に取り入れ、看護師がコーディネートしながら専門的な分野からの関わりを密にした支援を行っている。入院時から看護師と一緒に退院に向けての目標を立て、病状を評価しながら退院へつなげている。長期入院患者への退院促進の一環として、生活技能訓練（SST）や退院支援プログラム、地域支援移行事業の利用などがある。加えて生活面や治療に配慮した栄養・服薬指導等の各種個別指導や、肥満となっている方を対象に体重管理を主として集団栄養指導もプログラムとして行っている。他に、ストレス緩和を目的としたアロマセラピー、心理教育、認知行動療法、弁証法的行動療法などのプログラムの提供も行っている。今年度で 2 年目となるマインドフルネスの新たなプログラムを開始するなど、プログラムを増やし患者に適した入院治療を提供している。又、多職種による医療チームで患者・家族をサポートしていけるよう努力している。

【今後の展望】

- ・患者が退院後の生活をイメージできるよう入院時から医療チームと連携していく
- ・看護師の適切なコーディネート力の強化と、患者、家族への支援内容の提供
- ・個々の患者に応じたプログラムの提供と必要となるプログラムの導入
- ・医療チームで検討した地域生活支援に対して入院中に可能な限り、調整しサポート体制を確立する

文責 川島 浩也

【実績】平成27年度

	入院	退院
4月	4	9
5月	6	8
6月	4	11
7月	3	6
8月	7	10
9月	5	12
10月	7	12
11月	4	14
12月	4	9
1月	12	14
2月	8	11
3月	3	8

各種プログラム参加状況（1回あたりの平均参加人数）

	SST (1回/週)	心理教育 (全8回)	認知行動療法 (1回/週)	マインドフルネス (1回/週)	アロマ
4月	16	7.6	4.7	2.2	0
5月	16		3	3	2
6月	未実施		2.8	2.5	7
7月	未実施	6.5	2	4	1
8月	4		3	3	4
9月	9	4.5	3	5	5
10月	9		2.3	3.5	4
11月	12	5	2.3	3	4
12月	12		2	2.2	4
1月	11		3	2.2	1
2月	10	9	3.3	2	0
3月	3		2	1.7	0

【部署名】

1 階北病棟

【種 別】

精神一般 12/1 より精神療養から変更

【病床数】

45床

【職 種】

看護師・准看護師・作業療法士・看護補助員

【業務内容】

比較的安定した慢性期の精神症状を有する患者を対象に、社会参加・社会復帰するための支援や、日常生活で介助を有する患者には、快適で穏やかな療養生活を提供し退院へ向けてのアプローチを行っている。

日常生活に毎日OT活動を取り入れ、文化活動・体育活動・調理実習・外出活動・ガーデニングなど集団プログラムを通して病状の安定、対人関係能力の維持向上、生活リズムの回復、気分転換など図れる様にしている。

昨年度から主に認知症を対象にした高齢者の小グループを作り、感情の安定や不安感・孤独感の軽減、自分の培ってきた力の再発見、自尊心の向上などを目指した『回想法』を継続し実施している。

今年度の新たな取り組みとして、高齢者・認知症患者への関わり方としてユマニチュードを取り入れた援助の実践ができるよう外部研修の参加や病棟勉強会などを行っている。

【今後の展望】

- ・退院に向けた多角的なアプローチとサポートの継続
- ・担当による、患者個別のコーディネートと院内外の他職種・関係各所との連携
- ・環境整備や身体機能の維持、向上を図ることによる転倒リスクの軽減
- ・患者対応時の接遇意識の向上

文 責 布川征一郎

【実 績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入 院	1	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	4
退 院	1	1	0	1	0	2	2	0	2	1	1	0	11
転 入	1	5	1	4	4	8	5	2	4	6	3	4	47
転 出	0	4	2	4	3	8	5	4	2	2	3	2	39
日平均患者数	44.8	45.0	44.6	43.1	44.6	42.2	42.8	42.0	41.8	41.2	42.6	42.9	43.1

【部署名】

中央材料室

【職員数】

1名（看護補助員1名）

【業務内容】

- ・各病棟からの注文伝票による医療材料（酸素ボンベ・携帯酸素含む）、衛生材料（患者のオムツ等）の発注と納品された物品の検品を行ない、各種伝票および請求書を整理し、パソコンで管理している。
- ・中材室設置のオートクレーブを用いて滅菌ガーゼの作成と、全病棟から受け取っている医療器材の滅菌消毒を行なっている。
- ・患者の介護用品（車椅子、保護帽、リハビリシューズ、シルバーカー等）を総合的に受注し、担当者への発注と用品の納品、注文伝票等をパソコンで整理・管理している。
- ・院内に設置されているAEDの点検と管理、軽微な医療器材の修繕等を行なっている。
- ・医療器材等の関係職員への教育研修等を立案している。
- ・検査室で補佐的な業務を行なっている。

【今後の展望】

- ・平成28年度のスーパー救急病棟開設にあわせ、機材及び医療材料、衛生材料の充実を図っていく。
- ・医療材料、衛生材料の情報提供をすることで、診療現場での混乱を防ぎ、コスト削減に努める。また、介護用品購入時には、スタッフと共に患者に適した物品を提供し、日常生活がスムーズに過ごせるよう手助けをしていく。

文責 中村三枝子

【実績】

- 4/8 新人研修での心肺蘇生実演
- 4/15 新人研修でのオムツに関する勉強会
- 9/8 2階病棟ナースセンターで排泄ケアアドバイザーによるオムツに関する勉強会
- 9/16 2階病棟ナースセンターでポジショニングピロー説明会
- 10/15 2階病棟ナースセンターでトップ輸液ポンプ勉強会
- 10/22 2階病棟ナースセンターでシリンジポンプ説明会
- 10/29 2階病棟ナースセンターでテルモ輸液ポンプ勉強会
- 12/1 2階病棟ナースセンターでオムツメーカー切り替えに関する説明会